

# NJ素流協 News

令和5年5月10日  
第220号

令和5年5月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## NJ素流協 令和4年度 第2回 林業講演会を開催(後編)

～意見交換の部 地域密着の思いは、心にひびく!!～

NJ素流協は3月22日、令和4年度第2回林業講演会「成長する素材生産業の取り組みと今後の課題」を、会場とオンラインの複合型で開催した。今月号では、先月号に引き続き、意見交換の模様をお伝えする。

\*\*\*\*\*  
【司会】

NJ素流協

理事長 鈴木信哉

(パネリスト)

FIT JAPAN合同会社

会長 藤田友晴氏

有限会社 川井木材

代表取締役 川井博貴氏

株式会社 長瀬土建

代表取締役 長瀬雅彦氏

NJ素流協 鈴木理事長(以下鈴木)



NJ素流協 鈴木理事長

木) それでは、私の疑問点について皆さんにそれぞれお聞きしたいと思います。まず、藤田さんに、銀行から転職してきた若者もいるとのことでしたが、今の従業員数と、FIT JAPANという名前について、福島・茨城・栃木3県にまたがる八溝杉が頭の中にあつて3県が一緒に...というイメージで始めたのでしょうか。

動いています。それから、先ほどお話にありました元銀行員の従業員について、近くに銀行があるのですが、たまたまうちの若手林業作業班がお金の貸し付けの相談に行っていました。その時に相談に乗ってくださった銀行員の方が林業に興味を持って、現場を見に来てくださり、「自分もこういう仕事をやってみたいな」と思ったこと



FIT JAPAN 藤田友晴氏

FIT JAPAN合同会社 会長 藤田友晴氏(以下 藤田) 現在、社員と季節作業員の方は合わせて50名ほどおります。建設関係の仕事も幅広くなったので、下請けさんと一緒に総勢80〜90人で

がきっかけのようです。去年の下刈り時期前に入社して今も働いてくれている明るい好青年です。F

IT JAPANの意味合いについては、私は、署の販売係長として現場の第一線で仕事をしてきたこともあります。そこで、林業・林産業の大変さを体感し、当時、仕事が厳しくなってきた愛林組合の方々と一緒に現場に入りながら、この地域を守る…というような感じでやってきました。

**鈴木** わかりました。ということ、うちの組合員の方も銀行に相談に行けば、その職員が林業に従事してくれる可能性があるかもしれないですね（一同笑い）。次に川井さんにお聞きしたいことは、丸太を積んで直送する際、伐採現場から遠い場合はフォワーダなんでしょうか。小さいトラックも使おうのですか。もう一つは、末木枝条が集積場所から離れていた場合、粉碎する場所までどうやって運ぶのかお聞きしたいです。あと、川井「林業」ではなく川井「木

材」なのはどうしてか個人的に伺いたいです。

**有限会社川井木材 代表取締役**

**川井 博貴氏(以下 川井)**

トラックのサイズについて、一番小さいものは3t車だったのですが、それを使うケースというのはごく稀でして、支障木伐採のような小さい土木の仕事をする現場で使っていました。日頃メインでやっている施業地では最低でも8tトラック、材積でいうと10t積めるトラックまでを使用することが多いです。

場内でトラックが直に造材の現場につけられない時は、運搬距離約300mを目途にフォワーダでトラックの積み込み場所まで小運搬します。なぜ300mなのかというと、この距離だと1時間に1回程度の往復ができるのですが、タワーヤダの生産数量に関して、1時間に1往復、約6〜7t運ばないと、運搬の工程が遅れを取って全体的な生産性アップにつながらないという理由で、小運搬もなるべく300mまでで抑える現場

作りをしています。その時出てきたD材などについて、D材は基本的に、弊社が丸太の積み替えに使用している中間土場に集積して粉碎作業をしています。その土場までの運搬時間も、1時間半圏内で運搬できる現場の枝葉、D材を集めてくるようにしています。そうでなければ、集めてくるのに費用

がかかりすぎてしまうので、なるべく1時間〜1時間半以内で、現場から1日約3〜4往復できるような集荷をしています。会社名は物心ついた時から川井木材という名前だったので、親戚とかでわかる人がいれば…次回の宿題という

ことでお願います(笑)。

**鈴木** たまたま岩手に川井林業という会社があるので(笑)。次に長瀬さんに伺いたいのは、高山(岐阜県)の林建協働の組合メンバーを見ると、土建屋さんと森林組合だけのようですが、素材生産業者との関係はどのような感じなのかということ、林道の設計で山型のものが良いとのことでしたが、地元の高山市はそれを設計に取り入れようとはならないのでしょうか。林野庁の規格が変わらないと難しいでしょうか。

**株式会社長瀬土建 代表取締役**

**長瀬 雅彦氏(以下 長瀬)** ま

ず、林建協働の話は、基本的に建設業界の副業化という流れの中で会員を募集して作った組合なのでメインは建設業者です。それプラス、林業事業者の方も入ってもらいたいとのことで、大きなシェアを持つている森林組合さんとまずは頑張っていこうと進めています。我々のやっているところと、地元の素材生産の方とで競合すること



川井木材 川井 博貴 氏

がまず無いんですね。基本的に国有林はやっておらず、民有林しかやっていないため、尚更、素材生産の方とかぶらないのかなと思います。林業専用道については、昔の指針は「路面は水平とする」と書いてありましたが今は、「原則水平とする」ので、屋根型でもいいよということになっているので、県の補助事業や市の仕事は屋根型でやっています。ただ、全部屋根型でやっているのではなく、屋根型で作ると排水され、将来的に壊れない道に…と説明して理解してもらえたら、所有者の意向があればやっています。

**鈴木** それは市や県の仕様書には書かれないと理解してよいですか。あくまで所有者の意向ということですね。

**長瀬** 書いてありますし、きちんと屋根型での絵になっています。

**鈴木** 仕様書もそうになっているんですね！分かりました。

**長瀬** 我々が作っているのは、林業専用道の規格相当なので、民有



長瀬 雅彦 氏 長瀬 土建

林の中で自分たちが作るものなので自分たちで絵を描くんです。

**鈴木** 分かりました。岐阜県ではどうしているか、確認したくて質問しました。それでは次に、今日の講師3名の中で、他の方に聞いてみたいことがあるでしょうか。

**藤田** 長瀬さんに伺いたいのですが、「将来に残る道」ということで、たいへん素晴らしいと思います。フォワーダが通るだけの作業道についても屋根型で作っているのですか。

**長瀬** 森林作業道については、単価的なものが安く、屋根型にする

だけのコストをかけられない部分もあるので、通常形で簡易なもので作ります。ただし、転圧はします。また、水が流れるところは分散をしたり排水を作ったり…というところは守らなければならぬ部分です。

**鈴木** ありがとうございます。他にはどうですか。

**長瀬** 川井さんにお聞きしたいです。高知という急峻な地形で架線集材をやりながら、端材はチップに…ということでしたが、あの高額の機械はどのように購入してどのように償却しているのかなと知りたくて（一同笑い）。言える範囲で大丈夫です。

**川井** ありがとうございます(笑)。ほとんどリース会社を通じて導入しています。あくまで個人的な考え方なんです。万が一、事業を通じて導入した機械が弊社では使いこなせなかったという場合、簡単に辞めることができないので、リース会社を通じて、撤退するときは撤退するという構成でやって



講師の皆さん同士で質疑応答

きています。今のところ、高額な買ひ物はタワーヤードやハーベスタ、近々のものだとは破砕機なのですが、これらもリース会社を通じて、ものによっては残価を設定して導入しています。やはり、現場内の機械だと、リース会社だと動産保険もセットでリース代に含まれています。ということは、極端な話、融資を受けて機械を購入して十動産保険をつける場合よりも明らかに安いので、基本的にリース会社を利用しています。ただ、車輛に関しては、動産保険はつか

ないので、ものによっては銀行融資などで購入しております。

**鈴木** ありがとうございます。

**長瀬** ところで、林業で素材生産をしているところはなぜあんなに機械がボロボロになってしまっているのでしょうか。建設業から見るとありえないことなんです。一人一人に管理させているからなのか、乗り方の問題なのか、森林組合さんにも直接聞きづらくて、教えていただけたらと思つて。聞いたら、修理代もとてもかかるそうで。

**鈴木** ボロボロになっている林業機械を持っている素材業者の方誰か：（一同爆笑）。

**長瀬** いや、そういう人がいても中々直接聞けないんですよね（笑）。

**鈴木** では、機械に詳しいのは大粒来さん、どうですか？

**有限会社丸大県北農林 代表取締役 大粒来仁孝氏** 個人任せというところもあると思いますし、やはり社員教育が徹底していない、その延長線として労災につながるというような、業界として低水準



丸大県北農林 大粒来 仁孝 氏

のところでの作業で、あのようボロボロになるのだと思います。業界としても考えていかなければいけない部分だと思います。

**鈴木** はい、ということを実体験に基づいた回答だと思います。あと、私からも一つ藤田さんに聞きたいのですが、災害時退避用に公民館にバイオマス発電という話がありましたか、それってどのような設備なんですか？

**藤田 議員** 活動の傍ら、企業誘致でバイオマス発電所2基に来てもらいました。地元の林業関係者も未利用材を利用してもらえるというところで大変ありがたいのですが、

その売電の収益はほとんど東京と大阪の会社の方に持って行ってます。ですので、ぜひ地元各地にある公民館で40kW程度の小型のバイオマス発電所、秋田の道の駅にあるフィンランドのボルター社のガス発電所のようなものを設置して、通常時は売電し、災害時には、地元で使える電気に切り替えて使いたいですし、熱も出ますのでそれも最大限利用したいと思ひ、近隣市町村の首長・議会議員の人達と検討会を行っているところです。

**鈴木** 分かりました。それでは次の話題に移りまして、今、林業事業体に結構若い人達が入ってきていると思ひますが、若い人に喜んで働いてもらう工夫はあるでしょうか。順番に伺いたいと思ひます。

**長瀬** 若い方の採用につきまして、基本的に、ワークライフバランスを充実させるということで、うちの会社では建設業では珍しく、3年前から週休2日制です。有給休暇は皆10日以上取りますし、取らせません。そして、用事があつた時

に、仕事よりも家庭を大事にしてほしいということで休みを与えています。こういったことが最近いのかなど感じていますし、国の取り組みで、ワークライフバランスに力を入れている企業ですとか、健康経営優良法人ですね。やはりこれを取っていないとこれから新しい人は入つてこないのでは健康経営の認証を取るといふこと。あとは、今の時代、SDGs的な発想をしない・知らないといふことは無いので、健康や福祉、ジェンダーの話も含めてある程度理解していかないと、若い方は中々定着しないのかなと思ひます。あともう一つ大事なのは、お金です。賃金をアップするといふこと、やりがいについては林業も建設業も問題ないと思ひるので、この辺りを揃えていくのが重要かなと思ひます。皆さんもぜひワークライフバランスを進めていただければと思ひます。

**鈴木** ありがとうございます。次に、川井さんお願いします。

**川井** 長瀬さんが仰るように、休

みの面もありますし、弊社としてもお金について、非常に重要なところだと思っています。弊社は結構田舎の企業ではありますが、田舎で就職して、家庭を持って家族を養っていくという面では、仮の話ですが、高卒の方が就職した場合、手当を合わせて総支給で25〜26万は超えるくらいの給与基準でやっております。あと、手当に関しては、弊社で工夫しているところは、月々の生産数量に合わせての歩合をつけているのですが、「誕生日手当」というものもつけておりまして(おおく)。年齢×千円の支給で、誕生月の給与に反映しています。私の中で1つ、思いがあるのが、皆さん、年齢を重ねることがネガティブに感じると思うんですが、林業で、1年1年、無事で、無事故で年を重ねていくのは素晴らしいことだと個人的には思っております。この点で、健康で、事故なく仕事をしていくことによって見返りが得られるという意味合いで、誕生日手当というものをやっ

ています。あと、若い方の就業促進で言いますと、作業ユニフォームは目立つものを作って支給しています。現場で使っている重機類も目に付くようなものを、もちろん、生産効率も大事ですが、ヨーロッパの林業機械って色味もあって奇抜でカッコイイんですね。やはり、こういったものも使っていますよということも魅力発信の1つとしています。最近、弊社の運送事業の方でも、父がデザインしたコーポレートカラーのトラックでやっています。そのトラックを見て、あの会社のトラックに乗りたいということでも若い方が申し込みもしてくれていますので、そういった点でも魅力発信をしながら、若い方に入っていただけるような会社作りを心がけている次第でございます。

**鈴木** 分かりました。次に、藤田さんお願いします。

**藤田** 私のところも若手は多くて、茨城県の高校球児が卒業した後入社してくれたこともあって：皆さ



会場の様子

んもそう感じると思いますが、林業はたいへん危険だし、きついし、利幅が少なく、非常に大変な仕事だと思っています。良い給料を出したいという思いと現実とは異なり大変だということもあります。若い方と面談するときに私が話すことは、良い車を買えるくらいに頑張って働いてくれればということ、ずっとFIT JAPANにいらただけでなく、自信がついたらどんどん独立してやっていけば自分の実力でも稼げるからという話もしています。その高校球児も「社

長になります！」ということでも、立ててやっていくわけなんです。そういったことで日常でもつながりを持つということ、皆で出張することも多いのですが、出張先でいろんな場所に行ったり、楽しくやっているつもりではあります。

**鈴木** はい、ありがとうございます。では最後に私からお聞きしたいと思います。林業が国産材時代を迎えようとして、林業の成長産業化が叫ばれている状況ですが、自分の会社の中で、「林業に対する夢」、どういうことをやりたいかと考えているか、お聞きしたいです。

**藤田** 私の会社も林業の他に様々なレクリエーションをやっていますが、木材生産だけでなく、先ほどの長瀬さんの講演にもありました、森林フィールドを使って、子供たちからお年寄りまでの、憩いの場づくりもやっていきたいし、自分も楽しんでやっていきたいと思っております。

**川井** 弊社が今のようなくみになったのは、ヨーロッパ林業を見

たからかなと個人的に思っています。ヨーロッパ林業は非常に夢のある施業をやっていたので、それに追いつけ追い越せみたいなき感じ

で今までやってきました。日本はまだまだ発展途上だと思えますし、政府の施策が出てから事業者が動きを取るといふような形なのかなと思います。現場のことを一番理解しているのは、施業をやっている方だと思ふので、一つの課題を解決していきながら、一次産業が、日本を支えていけるような、独立した産業になれるようにしていけたらなということが私の夢かなと思います。

**長瀬** 講演の中でたくさん夢についてお話しましたが、最終的に何を…と思うとやはり、「森に入る人を増やしたい」、そのためには、壊れない道を作りたい、そして、環境問題や災害の時に、森の方の責任にならないようにしたいというのが私の夢です。

**鈴木** 最後の質問と言いましたが皆さんにもう1個だけ聞いても

いですか。藤田さん、大子町で林業の他に成長しそうなものはありますか。

**藤田** そうですね、お米で日本一をとったところがありまして、ただ、それを大量に流通できるかというところではなくて、良いものはできるのですが大量に作れるわけではなくて。木材生産も然りですが、環境を活用できるもの、それから観光という点も、林業に関わるような形で持っていけたらいいなと思っています。今、大子町でセラピーロードに認定してもらって、森林浴ができるということもやっていますが、経済的にも、波及に関して課題があるかなと思っています。

**鈴木** ありがとうございます。川井さんは、高知ということで、林業で、他に同じような会社がたくさんできるといいなと思っていらいらいですか。ライバルはあまりいない方がいいですかね(笑)?

**川井** 同じような会社さんは、私は、できてもらったらいいなとい

う思いはあります。弊社の場合、地域に似たような、運送やチップも複合的にやっているような林業業者さんはいなくて、でも、そう

いうやり方をしていらっしゃる方に全国的にいらっしゃいますし、そういうやり方をしないと素材生産が下火の時などにカバーできないなとは思いますが、ライバルがいて競争が生まれることによって産業は伸びると思っているのです、地元の業者さんも然り、県内もそうですが、県外でも、聞かれたことに関しては、お金についても情報は全てオープンにするようにします。というのも、聞いた人がさらに素晴らしいことをやったら、それをまた吸収させてもらいたいです。地元業者さんもどんどん力をつけてもらったら…と私は思っています。

**鈴木** ありがとうございます。高知も大森林県なので、森林県から林業県へ木材産業界へと移行することを希望しております。最後に、長瀬さん、今広葉樹のまちづくりといった取り組みを飛騨地方でやっ

ていると聞いたのですが、広葉樹の利用については、長瀬さんはいかがでしょうか。

**長瀬** 実は、「広葉樹のまちづくり学校」を私、卒業したんですよ。

**鈴木** あ、そうですか!

**長瀬** はい、スイスのフォレストが来られていて、私も参加したんです。実は高山市の隣にアニメ映画の「君の名は」のモデルになった飛騨市があるのですが、そこで人工林が少ないということで、元々ある広葉樹を使って…ということで、広葉樹のまちづくり学校を始め、全国的に注目されて、北海道の中川町などとタイプアップしながらやり始めたんですけど、まだまだ道半ばだと思ふのですが、若者の移住がとて増えています! 広葉樹を使って家具や小物を作りたいとか、ワーケーションやリトリートとか、そういう方も非常に増えてきているので、面白い取り組みだと思っています。もう1つ、面白いことが、広葉樹って例えば、

タワーヤードで降ろしてきたときに、この部分は使えてこの部分は…ってやるじゃないですか。タワーヤードで架線を張った瞬間に、広葉樹が欲しい人を山に連れて行って、欲しい木を選んでもらおうんですね。降ろしてきた時にその人のものになって、渡す。用材になるもの、端材になるもの、コブみたいなものも集める人もいて、全て商品価値をつけていくという事例もあれば、皆さんご存じの飛騨産業さんのような、節のある木を使って家具を作るということで成功した会社もあるので、いろんな用途があるんじゃないかなと思います。でも、基本的に森と食と観光とがつながっていくという形をとらないと、まちづくりにはつながらないので、そういった形がこれから進んでいくのだろうなと思っています。まず、私も広葉樹でグリーンウッドワークであったり、家具を作ったり、子供たちとの木育をやりたいなと思っていますので、そんな方向も目指していきたいと思っています。



講師の皆様、ありがとうございました！

ます。  
**鈴木** ありがとうございます。納入伝票で広葉樹のことを「雑」と書いてくる人がたくさんいます。「雑」ではないんですけどな〜と思います…。そうした扱いを変えようと先進的に動いているエリアなので、実は今年度の先進地視察で行ければな〜と思っていました。が、新型コロナで断念した経緯があるので、次の機会に検討したいと思います。皆さん、長時間にわたり、ありがとうございました。

トピックス

**令和4年度 第4回東北森林管理局 国有林材供給調整検討委員会が開催されました**

令和5年3月10日、東北森林管理局(秋田市)において、標記の検討委員会が秋田県立大学木材高度加工研究所長 高田克彦教授を座長に開催された。

委員9名がすべて出席(WEB参加1名)し、需要急変時における国有林材の供給調整機能を發揮させるため、供給調整の必要性や調整を実施する方法について、意見交換が行われた。

はじめに唐澤森林整備部長より、厳しい情勢下であるが令和4年度を上回る販売量を確保している。新工場の設置、火災工場再建後の先行きに明るい状況を期待したいと挨拶があった。

木材産業関係者から、市場相場の崩れ、集成材の価格下落、需要回復

の見込みは5月以降となるのではないかと等しい状況にある意見があり、一方で、ブランド材、バイオマス材、梱包材については需要が維持されているとの情報があった。

検討結果については、各合板工場では減産体制、集成材・LVL工場においても原木の受け入れ制限が行われ、製品価格の値下がりを受け原木価格は、製材、集成材、LVL用を中心に段階的に値下がりの状況。少なくとも5月連休頃までは原木・製品需要の低調な状況が続くものと予想される。

また、製紙・燃料用原木については、素材生産量が減少し、不足感が出ている状況があり、今後も引き合いは強まるものと予想。

このような中、国有林では、原木の過剰供給を防ぐとともに、虫害時期の生産・販売を抑制するために令和5年度は立木販売、システム販売の公告を例年より遅らせる計画としているほか、立木販売済みの物件については、搬出期間の延期措置を講じる。また、越材の販売は、委託販



売とし、需給動向に応じて柔軟に対応をすることとしている。

以上から国有林に対しては、「引き続き管内の市況や需給動向を注視しつつ、令和5年度に講じる措置を効果的に行うとともに、必要に応じて原木及び立木の供給調整を柔軟に行うことができる体制を維持していくよう求める」と報告している。

意見交換後、トピックスとして、東北森林管理局管内の各県における木材利用の取り組み事例について紹介があった。

詳しくは、林野庁・東北森林管理局ホームページ新着情報をご覧ください。

林野庁 HP  
 令和4年度 第4回東北森林管理局  
 国有林材供給調整検討委員会  
<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/koho/kohyo/R04kyokyuchoseikento.html>



**J-クレジット Q & A**  
 「森林クレジットの今が分かる！」  
 ～森林クレジット制度  
 活用セミナーの事例より～

**Q 森林由来のクレジットとは何ですか？**

森林由来のクレジットとは、国が認証するJ-クレジットのうち適切な森林管理によるCO2の吸収量(t)を「クレジット」としたものです。経団連カーボンニュートラル行動計画の目標達成やカーボン・オフセットなど、様々な用途に活用できます。

**Q 森林由来のクレジットの種類は？**

森林において実施できるプロジェクトは、今のところ、森林経営活動、植林活動、再造林活動の3つの方法(論)です。

**Q 適切な森林管理とは？**

森林経営計画が立てられている森林になります。

**Q 誰がプロジェクトを実施するのですか？**

プロジェクト実施者になる上での制限はなく、個人や法人格を有しない任意組織もプロジェクト実施者と



J-クレジットの流れ ※J-クレジットHPより

なれますが、コスト、長期間の管理や持続性の担保等から、森林組合等の森林経営計画の認定請求者と共同実施することが勧められています。

**Q 森林由来のクレジットの認証対象期間を教えてください**

森林管理のプロジェクト期間については、昨年の改正により、「認証対象期間8〜16年」+「持続性担保期間10年」の最大26年間となります。

**Q クレジットを発行するまでの道のりは？**



発行までの道のりは次のとおりです。

①プロジェクト計画書の作成↓審査機関による**妥当性確認**↓登録

②プロジェクトの**モニタリング報告書の作成**↓**審査機関による検証**↓J-クレジットの**認証**・発行

Q **ずいぶん手続きが多いですね。できるだけでしょうか？**

①のスタートとなる**プロジェクト計画書の作成**、②の**モニタリング報告書の作成**は、プロジェクト実施者が自ら行うものです。これには、制度管理者からの支援（コーチング）があります。

現在、クレジットを販売されている方々も事務局に問い合わせながら、一つずつクリアして、J-クレジットを発行しています。なお、支援は無料です。

Q **長い道のりになりそうですね？**

プロジェクト計画を作成・申請後、早ければ1年程でクレジットの発行ができるそうです。プロジェクト計画の作成に手間取ると2〜3年ということもあるそうです。

Q **プロジェクトの登録とは何ですか？**

申請されたプロジェクトが、方法論に合致しているか、J-クレジット制度上のプロジェクトの要求事項を満たしているかを審査機関が確認して（**妥当性確認**という）、登録することです。

プロジェクトの登録は、J-クレジットの発行を確約するものではありません。

Q **モニタリングとはなんですか？**

モニタリングとは、登録を受けたプロジェクト計画に記載された内容について、温室効果ガス排出削減量・吸収量の算定に必要なデータ等入手又は計測することです。

プロジェクト事業者は、モニタリングの結果から温室効果ガス排出削減量・吸収量を算定し、モニタリング報告書を作成する必要があります。

Q **検証とは何ですか？**

審査機関が、モニタリング報告書の内容について、適正であるかどうかを評価して検証報告することです。クレジットの認証に当たって、事業

者は必ず審査機関の検証を受ける必要があります。

Q **認証とは何ですか？**

プロジェクトによる温室効果ガスの排出削減・吸収量について、J-クレジット制度管理者が当該排出削減・吸収量をJ-クレジットとして認めることです。

Q **発行までのコストは？**

測量等の現地調査費、プロジェクト実施者の事務経費として、少なくとも専属担当者1名分の給与が必要です。その他、森林由来のクレジットの場合、妥当性確認、検証の審査費用は、条件によって差異があるようですが、それぞれ約100万円かかるようです。

Q **なかなかの持ち出しですね？**

審査機関によるプロジェクト計画書の妥当性確認とモニタリング報告書の検証には、国からの費用支援があります。

中小企業、自治体、公益法人の場合、妥当性確認については80%+α、検証については100%の費用支援となつています。

予算枠があるので、計画的に申請する必要があります。

詳しい要件などは、J-クレジット制度ホームページの「申請手続」↓「申請手続支援」をご確認ください。

J-クレジット制度HP  
「申請手続支援」  
<https://japancredit.go.jp/application/support/>



また、計画の作成等の手続きを一括して会社等に委託する方法もあります。委託費用を確認したところ、クレジットの販売額の一定割合としている例がありました。

Q **クレジットは、いくらで売れますか？**

クレジットは相対取引或いは入札販売となるので、決められた価格はありません。このため取引量などにより価格に差が生じます。森林由来のクレジットは、t-CO<sub>2</sub> 当たり約1万円で取引されている事例が多いようです。

※tCO<sub>2</sub>とは二酸化炭素の重さです。CO<sub>2</sub>の重さは炭素に酸素を加えるので、炭素の約3・7倍になります。

**Q** ha当たりの吸収量は幾らですか？

事例では、約56haのスギ・ヒノキ山で240tCO<sub>2</sub>/年となつています。とすると、240t×約1万円Ⅱ約240万円/年となります。主伐地や高齢林地が含まれると、吸収量が少なくなります（主伐は逆に排出量が増え、高齢林は年をとって吸収量が減り、年間の蓄積量が少なくなる）。

**Q** クレジットに有効期限はありますか？

少なくとも2031年3月31日までは制度管理者が作成するJ-クレジット登録簿において管理されます。今のところ、有効期限はありません。

**Q** クレジットを森林所有者が受取っても良いのですか？

もちろん、受け取れます。クレジットの販売収入の分配方法に制限はありません。

森林を維持するには、J-クレジット

トの認証対象期間以降も管理をする必要があります。将来の施業費用の備えとする方法や基金として積み立てる方法も考えられます。

**Q** J-クレジット制度の申し込みをしたいのですが？

J-クレジット制度ホームページの「申請手続」↓「申請書類」ページに各種申請様式と手続きが掲載されています。ご一読ください。

J-クレジット制度HP  
「申請書類」  
<https://japancredit.go.jp/application/document/>



貴重な知見をいただきました耳川

広域森林組合 諸塚支所 田村様、(株) 栃尾木材工業/ (株) 栃尾木材 大金様、根羽村森林組合 大久保様、美深町建設水道課 小倉様に感謝申し上げます。

**参考**

・林野庁 森林由来J-クレジット創出者向けハンドブック

林野庁HP  
J-クレジット制度ページ  
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin\\_riyou/ondanka/J-credit.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html)



・J-クレジット制度HP

J-クレジット制度HP  
<https://japancredit.go.jp/>



**お知らせ**

**令和4年度 第9回理事会を行いました**

NJ素流協は、令和4年3月27日、盛岡市内において令和4年度第9回理事会を開催しました。

組合員の加入、非常勤理事報酬額とその支払い時期、令和4年度収支

決算見込み、利用分量配当金の算定基準変更、令和5年度事業計画、共同販売事業取引先の選定の件、退職金規程の改定、令和5年度第1回理事会及び第20回通常総会並びに創立20周年記念式典開催の件の承認をいただきました。

また、再造林基金の取り組みや、組合員の林業技術の向上と経営改善を図る各種研修の実施状況など12件の報告事項を説明しました。

**創立20周年の記念看板を製作いたしました！**

ノースジャパン素材流通協同組合の創立20周年の謝意を込めて看板を製作しました。既に組合員の皆様にお届きのことと存じます。

この看板は、明治中期、岩手県におけるカラマツ植栽の創成期に植栽された「岩手山120年生カラマツ」を加工したものです。天然素材につき、所々に節などがある一枚物の看板となっております。

近年、ようやく価値が認められるようになった人工林カラマツの歴史

に思いを馳せながら、永くお使いいただければ感謝の上ありません。



作成例です。株式会社イワリン様からお借りしました！

**研修生を受け入れました！**

NJ素流協News216号にて、組合員の研修生を募集したところ応募があり、4月より研修生を受け入れております。

これから皆様方を訪問することがありますので、ご指導下さいますようお願い申し上げます。

また、研修生の受け入れにつきましまして、今後も継続して行つて参りますので、ご希望のある組合員の方は、経営企画管理部までご連絡下さい。

なお、研修は、期間1年、出向扱い(研修生所属組合員負担)となりますことを申し添えます。

**直近の木材需給の動向をお知らせします！**

**注目!**

●合板

直近の生産の状況は、全て3割〜4割前後の減産の状況となっている。

製造量は大幅に減少しているが、出荷の落ち込みが響き、在庫量が減らない状況となっている。

国産合板メーカーは価格維持に向けて減産を進めてきたが、流通在庫をメーカー在庫にしている状況となっている。そのような中、輸入合板がジリジリと値下げをはじめ、それに連動して、国産合板も価格が引つ張られている傾向もあり、5月から原木の受け入れ価格の値下げを行なった工場も出てきている。

今後の生産については、引き続き、販売状況を見ながら減産を続けざるを得ないところである。

しかしながら、川中、川下総体の在庫は減少傾向にあり、全体需要の回復を見ながら、先行きは徐々に変

化する可能性もある。

●集成材

欧州材を原料とする集成材(RW・WW)と米マツ製材品、杉集成管柱の構造材がシェアを争い、コストギリギリの値下げ競争を繰り広げている。そのため、荷余り状態である外材価格に引つ張られるような形で国産集成材も毎月、毎週のように製品価格が下がっている。また、電力費、

接着剤費、部品などの設備関係の高騰により製造コストの上昇が工場経営に大きく響いている。そのため、原木価格も下げざるを得ないといったところである。

こうした製品在庫調整に伴う外材との値下げ合戦、我慢比べにどれだけ耐え得るかで製品の受注に各社奮闘中である。

●バイオマス、製紙用原木

製紙・バイオマス用ともに引き合いは強く、円安の影響もあり、原木価格も上昇しているが、入荷が低調で慢性的な原木不足感が強い。

A、B材が動かないと、C材も出てこないため、切り控える素材生産

業者も多いことから、動きの回復を待つしかない状況である。

短コロ・末木枝条のD材活用のチャンスである。

●組合員の皆様へ

合板、集成材ともに大変厳しい状況ではありますが、秋田県能代市には、中国木材の進出、秋田県仙北市では協和木材による門脇木材の完全子会社化、岩手県雫石町では、川井林業の新工場建設など、工場は着々と動きがあります。

桜の開花も例年より2週間早く、雪溶けもかなり進んでいることから、今年は、虫害の時期も早いと予想されます。特に、広葉樹・アカマツについては、気温が上がり、変色、木口割れも起こるため、フレッシュな状態での早期出荷にご協力よろしくお願いたします。

まだまだ、80年生以上の高齢級杉材、広葉樹、製紙、バイオマス用C材(D材含む)は引き続き足りないため、出荷希望の際は営業担当にご相談下さいますよう何卒よろしくお願いたします。

### 納入量平準化のお願い

組合員の皆様へお願いがあります。

### おねがい

月初め、また、早朝に原木運搬トラックが集中するため、納入時間の分散及び、特定の日に納入が集中しないよう、納入バランスの平準化にご協力をお願い致します。

### NJ素流協 第20回通常総会及び 創立20周年記念式典開催 のお知らせ

ノースジャパン素材流通協同組合第20回通常総会及び組合創立20周年記念式典を次のとおり開催いたします。皆さまの出席をお待ちしております！

【日時】 5月23日（火）

\*通常総会

14時30分～15時45分

\*20周年記念式典

16時00分～17時10分

\*祝賀会

17時30分～19時30分

【場所】 ホテルメトロポリタン

盛岡 ニューウイング

【祝賀会費】 5000円

### 詳細コラム

### 杭はカーボンストックの極み？ 「謎の杭遺跡」より

古代人は、仁徳天皇陵などの巨大古墳をどうやってつくったのだろうか？ピラミッド造りの巨石は、海を船で運び、陸をコロで運ぶシーンが映画などで描かれている。エジプト人は汗と土にまみれてたいへんだったろうな。日本の古墳は、砂地ではないので、自然地形を活かして小山の外堀を削って盛り土に使う合自然工法？であったからそんな苦労はなかったと勝手に思いこんでいた。

ところがどっこいである。過日、ネットに流れていた「謎の杭遺跡」岡山市津寺（つでら）地区にある造山（つくりやま）古墳について、本を読んでみると、なんと古墳はピラミッドの石材と同じように大量の土砂を運搬しており、それには水路が必要、この杭群は

その水路や港の跡だったのである。

この古墳は、1980年代に高速道路の造成中に発見された遺跡で、古墳時代の終わりごろのものだと推定され、旧足守川に沿って長さ90m×幅5mの区域に6000本以上の木杭が打ち込まれていたもので、杭以外にも盛土の固定に横木が使われ、盛土にスギの樹皮や木の皮、アシなどを挟み込んだ高度な工法であった（19Cのオランダにそっくりの工法があるとのこと…著者は元国土交通省の港湾技術者）。

こうした粗朶沈床（そだちんしょう）工法により、長さ90mに亘る木製の突堤をつくって、港として土砂運搬に使っていたのである。その他、高梁川（たかはしがわ）にある奈良時代の十二箇郷用水の湛井堰（たたいげき）遺跡では井桁（いげた）を組んで丸石を詰め込んだ沈床、もっと古いものでは、鳥取県の青谷上寺地遺跡（弥生時代）では木製えん堤、青森県の三内丸山遺跡（縄文時代）でも道の法肩に使われた矢板が見つかっている。

「土」と「木」、まさに「土木のテク

ノロジー」である。

明治時代にも、東京駅や大阪駅周辺の軟弱地盤の建物には、基礎杭として松杭が使われている。なかでも、東京駅舎は不等沈下を防止するために、8メートルの松杭1万本以上を基礎杭に使った大工事が行われ、この松杭が腐らずに残っていたことが知られている。

平成24年に建て替えられた阪急うめだ本店でも、旧本館の基礎杭に使われた明治時代の松杭が、今は装飾柱となつて13階のレストラン街に残されている。100年以上前の基礎杭だって、1400年以上前の沈床だって、縄文や弥生だって、空気に触れなければ、木材は腐らずに残っている。これって、みんな超々長期のカーボンストックだよね。

「杭はカーボンストックの極みなのに、ストックしないと、クイを残す？」

### 参考

『古代史のテクノロジー』（長野正孝著）PHP新書  
（株）木原木材店HP（兵庫県多可町）

ちよつと気になる木の話

昭和59年、60年の  
役場時代の思い出  
― 土地とマツタケ問題が… ―

昭和59年、60年と京都府京北町役場に九州から赴任した。当町の主な産業が林業で、町会議員さんのほとんどが林業関係者で、戦後林業真っ盛りの時期であった。その日々の中で思い出から、現在の林業の課題の一部につながると考えている。

まずは「その1」、新設林道建設時の境界問題である。新設林道敷が境界で隣接する山林所有者が互いに一歩も譲らない。既に設計も終了し、当年度の新設林道補助金も示達されていた。工事は進めなければならぬので、境界争いをしている立木は原木市場へ出品し、販売代金を供託金として積み立て、民事裁判終了後に受け取る仕組みにしたのである。この時、一方の所有者はGHQ時代の航空写真を証拠としようとしたが、もう一方は植林時期ではなく、そもそも境界を侵犯している主張では、解決は難しい。「田舎あるある」であ

る…。

「その2」、当時、絶頂期であった磨丸太の銘木市場を建設することとなり、設計も予算も決まり、工事着手の直前だった。しかし、ここまでの間に、とある人物の土地売却問題が鍵となっていた。ある時、役場の林務担当に女性が現れた。「何とか、うちの息子を助けて下さい。今まで仲良くしていた地域の若者が、誰も話もしてくれず、はじかれています」という話だった。そこで、上司は、

「では、あの銘木市場がらみの土地を売却すれば仲間はずれは終わりますから…と父親に話して下さい。」と言った。その後、土地問題は解決して、地域唯一の喫茶店でも笑い声が響くことになったという。「田舎あるある」である…。

「その3」、製材工業団地の土地造成計画である。主たる土地は、提供は決まっていたが、周辺の土地には難関もあった。一つは、京都の有名な映画撮影所のお偉いさんである。当該集落から嫁さんが嫁いでいた。その思い出は大切であると、山を結

婚の祝い品として持っていったのである。しかし、何とか利用できることとなった。そこで、今度は、団地への道につながる上り口の小さな土地である。ここが通れなければ絶望的である。しかし、周りの集落の人とは仲が悪かった。休みの日に家へ出向いて、黙って長い間地元の人への恨み辛みを聞いた。私が地元と全く関係がないから話せたのでは…。最後は、「スッキリした」と言い、本人が望む別の取組とセットで解決した。「ふう〜！一息」。

「いよいよ、最終段階」、もう1か所あったが、「マツタケ」が出るアカマツ山なので、売却できない。と、この部分は諦めた。後に、団地ができた「マツタケ」は出なくなると聞いた。結果的には追加造成され、今はプレカット工場となっている。「田舎あるある」である…。

そこで、「マツタケ」の思い出である。ある時、税務署が役場に現れた。何かと思いきや、申告している「マツタケ」の収入は正確ではないので、どこの家で「マツタケ」が沢山でて、収入を得ているか把握したいと言う。そこで、次の発言である、「林務担当

には、山を写した航空写真があると聞いた。「マツタケ」がどの家の山に出ているか見せてくれ」である。素人が山を歩いても「マツタケ」を見つけるのは難しいし、出る時期に航空写真を写しているわけではない。「そんなの、マツタケが出てるのが分かる訳じゃないでしょう。」あきれた話であった。夜中に現金と「マツタケ」を交換しているとの話はあったが…。「マツタケあるある」である…。

「もう一つ」、当時、日合連の会長は、珍しく大阪の大〇合板であった。会長さんに、あなたの山林が、京都府の町にありますよね。地元の人があなたの山の管理人ということ、

「マツタケ」を採って売っていますが、ご存知ですか？確かに、うちの先祖は、その町出身で山林もあると聞いていた気がするが、「マツタケ」の話は知らないが…。後で、本当の山林所有者なので、森林簿と境界図面を送ってさしあげた。その後のことは知らない。「マツタケあるある」である…。

40年近く前の話なので、時効ネタであるが、今にもつながる山林の土地問題である。

令和5年4月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	10,553	116.1	64.8	7,179	84.8	71.1	17,732	101.0	67.2
カラマツ	3,304	88.0	105.6	104	320.7	5.2	3,408	90.0	66.6
アカマツ	1,461	140.3	37.4	15	17.4	11.9	1,476	130.9	36.6
その他	0	*	*	163	97.5	58.3	163	97.5	58.3
合計	15,318	110.3	65.7	7,461	85.3	59.7	22,779	100.6	63.6

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	4,617	110.2	141.7
カラマツ	3,318	100.9	126.0
アカマツ	2,976	113.0	115.3
その他	12	78.4	16.4
合計	10,922	107.8	127.8

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	10,553	7,179	17,732	4,617
カラマツ	3,304	104	3,408	3,318
アカマツ	1,461	15	1,476	2,976
その他	0	163	163	12
合計	15,318	7,461	22,779	10,922
目標達成率 (%)	6.4	4.3	5.5	8.1
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和5年4月の需給動向】

- 集成材や合板製品は、3月決算期末の在庫圧縮の影響もあり出荷は低調に推移した。
- 4月に入り製品の出荷も増える傾向にあり、今後は原木の消費増量を期待する。
- 価格については製品価格が値下げ傾向のため、原木価格も段階的に値下げに転じる。

耳からウロコ

燻製用チップの花形  
ヤマザクラ

—ミズメザクラ、ソメイヨシノは使える?—

燻製用チップの花形はヤマザクラである。ヤマザクラはバラ科サクラ属で、

オオシマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ等が含まれる。燻製用チップ業者に聞くと、ミズメザクラ(水目桜)は納入不可と言う。「そうなの?」と調べてみると、ミズメザクラは、カバノキ科カバノキ属でカバの仲間、サクラでは「ない」となる。そういうえば、原木市場では、ミズメの表示である。確かに、サクラの皮には似ているがサクラではない。製材したあとの色がサクラ色に近いのが、製品としてはミズメザクラとして思い込まれたのかも知れない。別称で、ヨグソミネバリ、アズサ(梓)である。

一方、日本の桜を席巻しているソメイヨシノは納入可能だという。ソメイヨシノは「ヤマザクラなの?」ソメイヨシノは、江戸中期、染井村(東京都豊島区駒込)でオオシマザクラ(大島桜)とエドヒガン(江戸彼岸)の交雑

種として開発されたものである。

そこで、開発地の名称と桜の名所とあわせて染井吉野と命名されている。なるほど、ヤマザクラ系列であるか!でも直材がとりにくいし、枯れないと伐採しないので、燻製用チップとしてはあまり流通していない。でも、覚えておくことは、「いざ」というときに役立つかもしれない。

同じような例はある。北海道のトドマツはモミ属である。エゾマツはトドヒ属である。本当のマツではないのである。2×4部材として有名なSPFは、一樹種ではない。スプルース・パイン・ファーの頭文字の総称である。とすると、スプルースはトウヒ、ファーはモミとなる。それなら、2×4部材をエゾマツ、トドマツを使えばSPFじゃないか?何故使わないのかとなる。日本のマツと名称が定着しすぎかもしれない。

最後に、秋田県角館市の伝統工芸品は樺細工である。樺の樹皮を使う工芸品かと言うと、実はヤマザクラである。ホームページでは、桜皮細工との表示もあるが正式名称は樺細工である。また、ミズメがサクラ属でなくカバ属の話に戻った?日本の樹種名は難しいね!?